※令和４年度以降入学生用

学校番号	１００５

令和８年度　情報科

教科	情報	科目	(学) コンピュータ実技	単位数	２単位	年次	２，３年次
使用教科書	なし						
副教材等	生徒のためのコンピュータ入力問題集第３版 （日本文教出版） ３０時間でマスターOffice２０１６　（実教出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「コンピュータ実技」は総合学科ならではの特色ある科目です。ソフトウェアに関する知識を幅広く修得し、情報技術に対する様々な考え方に興味・関心をもちましょう。
・「コンピュータ実技」では、１つの課題に対してお互いに意見を述べたり、グループで議論したりして､効率良く作業を進めるためのアイデアを提案し実行するといったプロジェクト型の学習を行います。
・授業中のプリントの記入においては板書を書き写すだけでは、評価の対象になりません。枠外にあるメモ欄に授業で取り扱った内容について自ら考えたことや気になった点を記入してください。
・様々な人々と関わる機会が多いです。積極的にコミュニケーションをとりましょう。

２　学習の到達目標

情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し，情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに，情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに，情報社会に主体的に参画する態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	基本ソフトウェアの使い方を理解し、基礎的な知識・技能を身につけている。	課題の発見・解決に向けての考察を深め、目的に応じた情報技術の活用を実践している。	生涯を通して情報技術を活用する意義に気づき、主体的かつ協働的に学習に取り組んでいる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	入力の基本	コンピュータ入力の基礎 ファンクションキーの活用	a:効率よく作業ができる機能について理解を深め、目的に応じてショートカットキーを使用する技能を身に付けている。 b:半角入力と全角入力の違いを理解して、場面に応じてどちらの入力がふさわしいか判断することができる。 c:他者と協働しながら課題に取り組み、積極的に習得した技能を活用しようとしている。	パフォーマンス課題	パフォーマンス課題	ワークシート
	文書作成	文書校正の理解 表の作成 切り取り線の作成 地図の作成	a:文書校正のルールを理解している。表をはじめとする文書作成に必要な技能を身に付けている。 b:伝える情報の性質についての理解を深め、視覚的にわかりやすい地図で表現するよさに気づき、情報表現の考え方を評価し改善することができる。 c:作成した課題をグループで共有することで、よりよい情報表現の方法を探究しようとしている。	パフォーマンス課題・ワークシート	パフォーマンス課題・ワークシート	パフォーマンス課題
二学期	表計算ソフト	画面構成の理解 基礎関数の理解 その他の関数の理解 グラフ作成	a:画面構成・表示形式について理解している。表計算の基本的な関数の機能について理解し、目的に応じて操作する技能を身に付けている。 b:グループで協働することで、多種多様な関数の機能について整理し、表の作成に必要な関数を適切に判断することができる。 c:わからない関数や習得の難しい技能について、グループで共有することで、課題解決に向けて、互いに学習状況を評価し改善しようとしている。	パフォーマンス課題	パフォーマンス課題	パフォーマンス課題・ワークシート

※令和４年度以降入学生用

三学期	演習課題	データベースの理解 ソーティングの方法を習得する 抽出の方法を習得する	a:データベースのよさを理解し、簡単なデータベースを作成できる技能を身に付けている。 b:データベースを活用して、グループで議論しながら、適切な抽出条件を判断して必要なデータを抽出し、ソーティングすることができる。 c:グループで協働して課題を取り組む中で、情報社会におけるデータベースの役割について理解を深め、情報技術を適切に活用するよさに気づき、情報社会に積極的に参加する態度を養おうとしている。	パフォーマンス課題	パフォーマンス課題	パフォーマンス課題・ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度